

KYFA 2024 九州U-13選抜サッカー大会

～テクニカルレポート～

大分県トレセンU-13 チーフ

《報告者》 菊地 玄

1. 日程・結果

10月5日 (土)		
No.	チーム名	チーム名
①	大分	熊本
	1	6
②	大分	長崎
	2	1

10月6日 (日)		
No.	チーム名	チーム名
①	大分	佐賀
	3	2
②	大分	鹿児島
	1	5

最終順位	
1位	熊本県
2位	福岡県
3位	鹿児島県
4位	大分県
5位	沖縄県
6位	佐賀県
7位	長崎県
7位	宮崎県

〔会場〕鹿児島県立サッカー・ラグビー場

4位／8チーム中

2. 活動の様子



3. 所感

大分トリニータも入れた県トレ選手16名で臨みました。初戦の相手は優勝を飾った熊本県と試合を行い、自分たちの現時点の立ち位置がはっきりと突きつけられる結果となりました。圧倒的に高い個の能力を持った選手たちと戦うために、グループ・集団でやっていこうと伝え、攻守においてコンパクトに戦うことをセレクトしました。2試合目以降は少しずつ自分たちの時間を作れるシーンや、主導権を握れる時間帯も増えました。最終戦ではまた強い個に対して対応しきれない場面もありましたが、最後まで自分たちらしく戦い抜くことができました。

また、オフザピッチの過ごし方や、目指すべき選手像を全員で共有し、この遠征を通して少しずつチームらしく、遅くなることができました。この年代のハイレベルな相手と戦えたのは素晴らしい経験です。この経験を活かすためにも、また日常にかえって、日頃のトレーニングから意識を変えていきたいと思えます。

4. 課題と成果

	【攻撃】	【守備】
課題	・個で剥がす、前を向くテクニック	・個で奪いきる力、抜かれない・打たせない距離
	・攻撃のかかわりの頻度、サポートの質	・自陣での守備(打たせない)、高い位置の守備
	・テクニックの質の追求	・ラインコントロール(止める・下げる)
	・GPのビルドアップの関わり	・グループでの守備(ユニット、縦スライド、横スライド)
	・オーバーラップ、インナーラップ	・GPのテクニック(シュートストップ、ポジショニング等)
成果	・立ち位置・距離感によるビルドアップの改善	・インターセプト出来るシーンが多く見受けられた
	・個の能力での突破(FWの選手)	・コンパクトフィールドの形成(上げる○)
	・個で通用しない相手に対してグループでの突破	・チャレンジとカバーの関係性
	・短い距離でのテンポの良いパス	・プレスバック、帰陣の意識の向上

5. まとめ

先述したように1試合目で自分たちの現在地を再認識し、2試合目からチームとしてやるべきことがはっきりと分かるようになってきました。ここ数年のトレセン大会も含め、大分県の立ち位置としては九州の中でも中位から下位として見られている状況です。もちろん個人の技術、個人戦術、フィジカル的なものも含めて個の能力をもっと高めていく必要はあります。ただ現状を鑑みるに、より数的優位やグループで戦っていくことがより大分県の目指すべき方向性として重要なのだと感じました。そのためにはしっかりと技術をベースを基に、豊富な運動量、関わり続ける心の耐久力が必要であり、より集団として戦っていく術を身につけていくことが九州や全国で戦っていくために必要だと感じました。今後のトレーニングでは個の部分にフォーカスするのはもちろんのこと、優位性の理解や関わり方の質や頻度をもっともっと要求し、個の強い相手にも複数で戦える術を身につけられるようなトレーニングしていこうと思えます。